

鰻の井戸

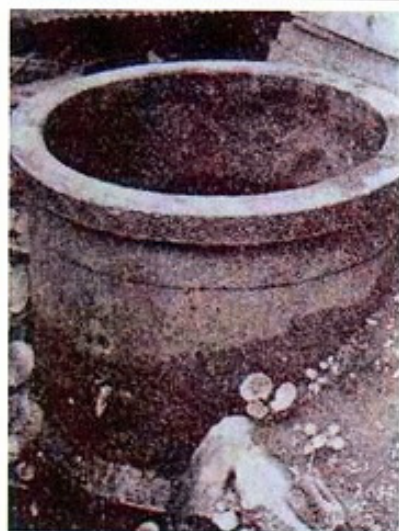
笹下2丁目

鎌倉時代に称名寺や金沢文庫を建てた北条実時にまつわる逸話です。建治二年（1276年）5月に実時は重い病いに罹り、海に近い温暖な金沢の城で療養するも病は少しも良くなり、日に日に重くなる一方です。実時はなかなか治らない病いの為、日頃信仰する紀伊の国の那智山の如意輪尊に願をかけようと一門が集まり、17日間の祈念丹誠をしていると7日目の明方に実時の夢の中に異相の人が現れて言いました。

「今度の病はおまえの運命だから、どんなに良い薬を飲んでも良くはならない。だが、日頃の汝の信心に報いる為に良い薬を与えよう。ここから西北の方向、二里ほどの処に古い井戸がある。その井戸には、頭に斑紋のある二尾の鰻がいる。これこそ汝の命を救う霊物なり。早くその井戸の水を取り寄せて飲みなさい」と言って姿は消えました。

夢から覚めた実時は、急いで如意輪尊の告げた井戸を見つけて、その水を持って帰るよう家来に命じました。家来が古井戸を探したが辺り一面には草木が生い茂り困惑していると年老いた村人が現れ、井戸のある場所を教えてくださいました。急いで水を汲み、老人に礼を言おうとするとその姿は見あたりません。

その後、この古井戸は「鰻の井戸」と呼ばれ、病に悩む人達を助けてましたが、実時の死後、不思議な事にいつの間にか鰻の姿は消えてしまったと、伝えられています。その井戸は今も、旧湘南信用金庫の横に現存しています。



保存前



保存後



現在地(旧湘南信用金庫)